

「年の瀬に思ふこと」

また一年が過ぎ去ろうとして
します。コロナやウクライナ問題
等、今年も様々な事件・事故が
多発した年でした。私も一年
を早く感じる年齢になったよう
です。

さて、来年のNHK「大河ドラ
マ」は徳川家康だそうです。そこ
で家康のエピソードを紹介しま
す。家康は毎日、「南無阿弥陀
仏」の六字名号を写経してい
ました。一種の念仏行です。と
ころが、ある夜、家康はこの念仏
行をやらずに寢床に入りまし

た。しかし、どうにも気分が落
ち着かず、眠れないので、寢床
を出ていつもの通り念仏行を
始めました。すると、彼がさつ
きまで横になつていた寢具の下
から、刀が突き出てきたので
す。

つまり、この念仏行のおかげで、
危うく難を逃れたと伝えられ
ています。この話が実際の話か
どうかわかりませんが、間違っ
て受け取られる公算が大きいの
です。というのは、もし家康が念
仏行をやっている最中に刺客
に襲われたとしたら、念仏行

をやらぬほうがよかつたので
しようか。どちらにしても、念
仏は念仏なのです。なぜなら、
念仏とは阿弥陀如来の功德であ
り、人間の功德ではないのです。
念仏を称える、または念仏が
自然に口から出る、それは全て
阿弥陀如来の私たちが仏に生
まれさせる功德であり、人間の
功德ではありません。つまり、
「南無阿弥陀仏」を自分が写経

したおかげで難を逃れることが
できた、これがお念仏の功德と
受け取られかねないのです。お
念仏とはどこまでも御恩報謝で
す。来年もまたお念仏申す
日々を送らせていただきたいと
思っています。
話変わって、十二月は一年で

一番日没が早くなる時期です。
もたもたしていると、すぐに日
が暮れてしまいます。人生も同
様で、やらねばならぬことがあ
るなら、早くしないと終焉を
迎えます。「石橋を叩いて渡る」
という言葉がありますが、橋の
向こう側に行きたいのなら、行
かねばならないのなら、叩かな
いで渡つてしまうことです。私
もそうしたいと思っています。

年末になると自分の生き方に
ついて反省する人が多いもので
す。いずれの道も迷わず、自分
を確かめて歩きたいものです。
大いなる人生、いつでもどこでも
仏さま（南無阿弥陀仏）とご
一緒です。
皆様、良いお年をお迎え下さい。